



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取県国際交流財団

とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鳥取国際通讯

No. 123

Sep. 2017



写真 平成29年度 多文化共生ネットワーク会議(中部)の様子
2017 Multicultural Synthesis Meeting (Central Region)
多元文化共生网会议(中部的情形)

目次 Contents 目录

TPIEFだより 02-03

- ・国際交流フェスティバル
- ・話してみよう韓国語 鳥取大会
- ・多文化共生出前講座
- ・平成29年度 鳥取県海外研修員、県費留学生の紹介

特集
「外国出身者の集う場所」
04-05

国際交流団体の紹介 06

- ・ザ・フレンドシップフォース オブ鳥取
- ・難民支援団体ピースバード

JICAデスクよりお知らせ 07

財団事務所から
こんにちは!
・第2回目 倉吉事務所

英語版・中国語版ダイジェスト 08-09

- Information in English and Chinese 英文版・中文版文摘
- ・International Exchange Festivals 国際交流欢乐节
- ・Greetings from Your TPIEF Office: Part2 : Kurayoshi Office 財団事務所の问候! 第二回合 仓吉事務所

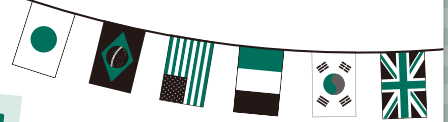
財団職員の来て見て中国!
ワールドレシビ
・ブリガデイロ(ブラジル) 10

開催&出場者募集のお知らせ



国際交流 フェスティバル

➤ 入場無料



よなご国際交流フェスティバル2017

日時: 9月17日(日) 11:00開場 15:00閉会

会場: 米子市文化ホール(米子市末広町293)

◆ステージパフォーマンス
12:30~14:30(予定)
inメインホール

12:30~13:00

モニーク・ディヘイニーさん

※特別出演としてジャマイカ人歌手によるミニコンサート

13:00~14:30 各国の伝統的な踊りや音楽演奏



◆飲食・物品販売

世界各国の特色あふれる料理を多数用意しています。(韓国、台湾、フィリピン、タイ、中国、日本など)各ブースでお買い求めいただけます。

◆展示&体験

各団体の活動紹介や多言語体験、体験を楽しむワークショップブースもあります。

会場内でスタンプラリーをして景品をゲットしよう!

移動図書館車「つつじ号」もやってくるよ!

詳しくは財団ホームページをご覧ください。

西部

東部

第29回 タイムフェスティバル

日時: 11月19日(日) 11:00~15:30

会場: とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町101-5)

中部

くらよし国際交流フェスティバル2017

~地球はひとつ☆みんなでつなぐ 笑顔のWa!~

日時: 11月26日(日) 11:00~15:00(予定)

会場: 伯耆しあわせの郷(倉吉市小田458)



韓国語

第13回
鳥取大会

応募締切

11/10(金)必着

日時: 平成29年12月16日(土) 13:00~

会場: 米子コンベンションセンター2階
国際会議室(米子市末広町294)



中高生スキット部門

一般スキット部門

日常の一コマを題材にした台本を覚え、役者になりきって二人一組で演じます。少しでも学び始めた皆さんも挑戦できる、新しい形のスピーチコンテストです。

スピーチ部門

テーマに沿って作文し、それを覚えて発表します。昨年から一人で参加できるようにしました。

この大会を通して韓国語で演じる楽しさを味わってみませんか?

日韓往復航空券をはじめ、ステキな賞品を揃えてみなさんのご応募をお待ちしています!



▲昨年開催の様子

~『話してみよう韓国語2017-2018』は、全国7カ所で開催~

募集要項・申込書・スキット台本はホームページからダウンロードできます。

<http://www.torisakyu.or.jp/?id=1646>

▼ 下記QRコードからアクセス!!



多文化共生出前講座



「内なる国際化」「地域の国際化」ということが言われてから久しくなりました。鳥取県においても63の国・地域から約4,100人の方々が様々な目的で在住し、共に生活しています。言葉も違えば文化や習慣も異なる定住外国人の増加・多様化に伴い、住民同士共に尊重し合いながら生活していくことは、住民ひとりひとりにとって身近な課題となってきました。

財団では、多文化共生社会に向けて地域に暮らす皆さんと

いろいろな角度から共に学び、共に語る場として「多文化共生出前講座」を企画し、講師を派遣しています。外国の文化や習慣を知るとともに、外国人講師等の目線から見た鳥取・日本を知り現状を学ぶことで、多くの気づきを得たとご好評いただいている事業です。

学校や職場・地域の研修などにご活用いただけますので、最寄りの財団事務所にお気軽にお問い合わせください。

平成29年度鳥取県海外研修員、 県費留学生の紹介

鳥取県では、毎年、交流している国や地域から専門機関で研修する研修員と県内の大学で専門分野を学ぶ留学生を受け入れています。今年度は4人の方が来鳥されています。



鳥取県・韓国江原道職員
相互派遣事業研修員

ハン ジョン
韓 芝影さん



韓国／江原道出身

私は江原道庁で獣医職として働いています。昔日本語の勉強をしたことがあって、ずっと鳥取県で研修をしたいと思っていました。鳥取県に来る前には色々な心配がありましたが、優しい方々に恵まれて居心地良く生活しています。

鳥取では、専門分野である畜産課での研修を終えて、今は市場開拓局で働いています。まったく異なる分野ではじめは戸惑う時もありましたが、新しい経験を積むことができ楽しいです。ここで習ったことを江原道に帰ったらぜひ活かしていきたいです。

鳥取県は自然豊かで美しい所が多いので、休日には観光に行ったり、知り合いと会って美味しい物を食べたりしながら余暇を過ごしています。

今は鳥取県が第2の故郷のように恋しくなりつつあります。



自治体職員協力
交流事業研修員

リー シン
李 鑫さん



フンチュン
中国／吉林省琿春市出身

私は琿春市外事服務中心に勤めています。鳥取県と吉林省は、1994年に友好交流に関する覚書に調印しました。また、琿春市は境港市と姉妹都市でもあります。

この度は6月に来県し、鳥取の観光、経済、国際交流などの分野について研修を受けています。これまで、色々な文化体験や台湾からの交流訪問団の随行など、貴重な経験をしました。県庁の職員が鳥取県の観光地や物産を宣伝していることが、特に深く印象に残りました。国際交流財団では、外国人のために、ボランティアが日本語を教えていることに本当に感動しました。私も、できれば力になりたいと思います。

帰国後、より多くの中国の人々が鳥取県のことを知り、鳥取に観光に来てもらうよう尽力します。一方、鳥取県の方々にも、吉林省や琿春へぜひお越しいただきたいです。



鳥取県ブラジル
交流促進事業県費留学生

クリスチアーネ
エリエ ニシザカさん



ブラジル／サンパウロ州サンパウロ市出身

私はサンパウロ市から来ました。日系三世で、祖父母が倉吉市の出身です。サンパウロ技術大学を卒業後、ブラジルのソフトウェア会社で4年間働きました。今年4月に鳥取県で留学生になって、鳥取大学大学院工学研究科の山田茂教授の情報システム研究室で、ソフトウェアの統計的品質管理法と信頼性評価技術に関する研究をしています。

鳥取に着いた時、桜の花が咲くのを見てとてもうれしく、それは私が見た中で最も素晴らしい景色の一つでした。鳥取市はとても美しいところなので、これからも色とりどりの秋や、冬には雪を楽しむことを楽しみにしています。ブラジルに帰って、日本の文化やここでの素晴らしい経験を広めたいです。お世話になっている鳥取大学の皆さんと鳥取県の皆さんに本当に感謝しております。これからもがんばります！



自治体職員協力
交流事業研修員

ジョディアン
ムンローさん



ジャマイカ／ウエストモアランド県出身

ジャマイカは小さな島ですが、美しい風景の広がる島です。私はウエストモアランド県の役所で行政管理官として勤務しています。歌を歌うことが大好きです。鳥取県とウエストモアランド県は昨年姉妹都市提携を締結したので、両県から公務員が相互に派遣されることとなり、私は今年の5月に日本に来ました。

今は日本語を勉強中ですが、今後は専門研修で様々な観点からマネージメントに関する見識を深め、帰国後の仕事に活かしたいと考えています。また、鳥取での生活をエンジョイし、鳥取で新しい友人と出会えることも楽しみにしています。



昨年度のジャマイカ研修員から本を寄贈していただきました！

平成28年度研修員のタマラ キャンベル ネキーシャさんから書籍3冊を寄贈していただきました。これらの書籍は、本所で貸し出しできます。

○ History of JAMAICA (ジャマイカ全土の歴史)

○ The Story of Westmoreland A Jamaican Parish (鳥取と姉妹提携締結をしたウエストモアランドの歴史及び紹介)

○ The Real Taste of Jamaica (ジャマイカ料理の本)



外国出身者の集う場所

同じ国や地域の出身者同士が、どのようにして日ごろから繋がりを持ち、いざというときにお互いが助け合えるような顔の見えるコミュニティをつくっているのか取材しました。

私たちムスリムの拠り所

鳥取マシド(鳥取市)

鳥取市に住むインドネシア出身のムスリム女性の皆さんにお話を伺いました。

来日して困ったことをお聞きすると、「礼拝の場所」「食べもの」「言葉」の3つを挙げていただきました。

日本は、まだムスリム(イスラム教徒)の方々にとってこうした環境が整っている国とは言えないのかもしれませんが。例えば、礼拝の場所です。ムスリムの方は、一日5回行う礼拝の前には必ず手足や髪の毛などを水で清めます。日本各地にモスクや礼拝の場所があるにはありますが、決して多くはありません。そのため、外出先で礼拝所が近くにないときには、各施設に設置してある多目的トイレを使うのが便利なのだそうです。しかし、現在の日本で多目的トイレと言えば、車椅子使用者、乳幼児のおむつ替え、高齢者といった方々が主に使われることが多いでしょう。もともと多様な人が利用可能な多目的トイレも、ムスリムの人たちにとっては気持ちの面で少々使いづらさを感じてしまうと言います。

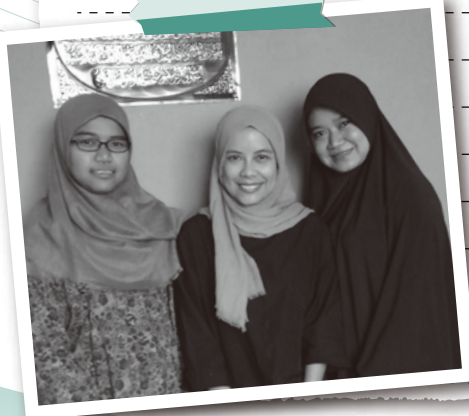
今回お話を聞いた中の一人、フェブリアニさんは、「多目的トイレの用途に、ムスリムが使用可能なマークをひとつ加えていただくだけで、私たちにとって便利で住みやすい地域になります。」と教えてくれました。

食べものについても困ることがあるそうです。鳥取県には、ハラール食品を取り扱うスーパーがまだほとんどありません。「鳥取県にはムスリムにとって魅力的な観光地もあり、安心して食事ができる場所があれば、もっとPRできるのに残念」とも話していました。

鳥取市にあるモスク「鳥取マシド」は、こうしたムスリムの皆さんの拠り所となっているほか、地域とつながり、日本での生活を心豊かにするコミュニティづくりに、ひと役買う場所となっています。

今回インタビューした女性の皆さんからは「ここに来れば他のムスリムの人たちに会えるので安心できる。気軽なおしゃべりを通して、それぞれの近況や情報を交換できる良い場所になっている。利用者の中には、国も言語も異なる人たちがいるが、挨拶言葉はアラビア語なのに皆共通なので、知らない人同士でも家族のような気持ちで接することができる。」といったお話を聞くことができました。同時に、鳥取県の皆さんには、同じ地域に多様な文化背景を持つ人々が住んでいるということをもっと知ってほしいと話してくださいました。皆さんの優しく素敵な笑顔が印象的でした。

◀左からリサさん、リニさん、フェブリアニさん



鳥取県初の日本語学校



米子国際ビジネスカレッジ(米子市)

2017年4月、鳥取県で初となる日本語学校が米子市に誕生しました。県西部には海外との貿易が盛んな境港があり、米子市にも海外から多くの方々が来られているため、将来的に日本語学校が必ず必要になるという視点から設立に至りました。

現在、学校に通う生徒さんは、皆、ベトナムから来られています。同じ寮に住み、衣食住を共にしながら、それぞれの目標に向かって毎日勉学に励みます。慣れない日本での暮らしも、同じ国から来県した生徒同士の助け合いや学校のサポートによって、楽しみながら日本での生活や文化を学んでいきます。

理事長の青山朋裕さんは、今後、ベトナム以外にも様々な国の
方々、地域に住む外国出身者も受け入れる可能性について話して
くださいました。同時に、「生徒たちには色々な場所へ出向いても
らって、地域との関わりを持ち、地元の人たちと触れ合ってもらい。
それが生徒自身にとってプラスになるし、地元の方々にとっても外
国出身の生徒たちと実際に触れ合うことで理解を深めてもらうこと
ができる。」と相互交流への思いも語ってくださいました。

授業の様子▶



フィリピン出身者同士の心温かな繋がり

米子カトリック教会(米子市)

毎月第一日曜日にはフィリピン人牧師による英語ミサが行われます。

ミサが終わると、別室へ移動して誰かが作ったフィリピンのお料理やお菓子、飲み物を囲みながら賑やかなおしゃべりが始まるのです。こうした教会での一場面というのは、当たり前のように新鮮でした。

地域に住むフィリピン出身の方々にとって、この集まりは大切な心の拠りどころとなっているようです。日本に来てまだ間もない人にとっても、同じ国出身の人たちが集まる場所があるということだけで寂しさを感じることはありません。集まった

皆さんが、たとえお互い名前を知らなくても、まるで旧友とおしゃべりしているように楽しそうに話をしている姿が印象的でした。

ここに通う長谷川ロウエナさんは、「ここに来る人たちにはもっともっと仲良くなってほしい。そしてこういう場所があることをもっと知ってもらい、たくさんの人に集まってもらいたい。」と話していました。

◀フィリピン料理を囲んでおしゃべり

